

編集・発行
障害福祉サービス事業所
あるむ
〒242-0003
大和市林間2-20-26
TEL.046-275-9520
FAX.046-275-9529

あるむの詩

2015年3月発行
記念特別号
(通巻75号)
NPO法人
共働あるむ

あるむ 30周年に寄せて

あるむ 30周年記念特別号

2014年11月に
お陰様で30周年を迎えました！
特定非営利活動法人 共働あるむ
30周年感謝の集い！



あるむ
30周年記念誌
を発行しました

共働あるむ



神保理事長挨拶

2015年2月21日
あるむ 30周年感謝の集い 北京飯店にて



乾杯！

前途多難か順風満帆か？

あるむ四〇周年へ、

さらに五〇周年へ



やっと三〇周年式典が終わりました。もちろん「式典」ではなく、「よく三〇年も持つものだ」という感懐を込めての「感謝の集い」でした。

何事につけ、形式張るのが苦手な私としては、堀場所長の提案と実行がなければ、二〇周年と同じように、昨日から今日、今日から明日と、淡々と過ごしていたことでしょう。ですから、法人会員の皆様以上に、所長をはじめとしたスタッフの尽力に感謝しなければならぬと思っています。

ただ、数名の所員が民間アパートの一室を借り受けてやっていた「作業所」時代から現在まで、支援者・協力者の有形無形の援助・応援がなければ、今日のあるむはなかったことも事実です。そして、事業に

せよ運営にせよ、「福祉」とは無縁に、障害の有無・種類・程度とは一切関係なく、「共に働く」ことだけをモットーにやってきたあるむをご理解いただいた方々への感謝を片時も忘れたことはありません。

エピソード的に語るのをお許し願えば、「年賀状印刷」（あるむ一番のかき入れ時です！）も、パソコン関係の家庭への普及や近くのコンビニなどでの印刷参入があるにもかかわらず、わざわざ、あるむへご注文をいただくお客様の存在は、大げさではなく涙が出るほど嬉しい事です。

様々な印刷物を通して、「障害者と共に働くあるむ」が地域に受け入れられ、根付き、そして花開く。さらに今、紙漉事業・農作業と、「働くこと」にこだわり続けているあるむを、これからもご支援・ご協力いただけるよう、お願いして、すべての皆様に、三〇周年感謝の集いのご報告とさせていただきます。

特定非営利活動法人共働あるむ

理事長 神保 欣世

三〇周年記念式典を終えて



二〇一二年七月に「誰もが安心して働き続けられる社会を！」というフォーラムで「障害のある人と共に働く印刷所あるむ」を紹介するパネリストを行うことになり、四月に依頼を受けてからいろいろな資料を調べることで歴史を振り返ることになりました。

一九八四年一月の設立から障害者地域作業所に至る期間は行政等への働きかけなど、大変だったことがわかりました。その間にも人数や設備が増え、徐々に発展している「あるむ」を知ることができ、設立者をはじめとする関係者の苦労を少しだけ知ることができたのではないかと思います。

そんなこともあり二〇一四年一月には三〇周年を迎えるので記念事業を行わなければならない思いが生まれました。設立者堀場信昭にも出席してもらい、今の「あるむ」について報告をしたかったのですが

二〇一二年一月、バイク運転中に倒れ、帰らぬ人となってしまいました。設立者の出席はかないませんが二〇一四年度の事業計画に入れることにしました。

「三〇周年感謝の集い」で発表させていただいた歴史のスライドショーはそのフォーラム用に作ったものをベースにしたものですが、もう一度見直すことにより三〇年の出来事や苦労を再認識することができました。既に三一年目になっていますが「自分の力で働いて、お金を得て、生活して行く。そんな当たり前のことを、障がいのある者と障がいのない者が共に力をあわせてやってゆきたい」という理念は一〇年後の「あるむ」にも変わらずに生きていることを設立者や関係者の方々にご報告できるようにしたいと思います。

障害福祉サービス事業所あるむ

所長 堀場 敦

ALM

式次第

11:30 開 場

12:00 開 宴

開会の辞

理事長挨拶

ご来賓紹介

30年のあゆみ紹介

12:20 乾 杯

会食・歓談

13:50 閉会の辞

特定非営利活動法人 共働あるむ

30周年感謝の集い

平成27年2月21日(土)

北京飯店

ALM

特定非営利活動法人 共働あるむ

ALM

30周年感謝の集い





川 誠司

昨年十一月にあるむは、何と、誕生・三〇周年を迎えた。

思い起こせば、三〇年前のこと、当初(時)あるむは、大和市西鶴間の住宅街の一角、木造アパート・グリコ荘(現在は、あるか?)で産声をあげた。

当時、(今でもそうだが?)米軍厚木基地が、近くにあつて、(現在も)毎日朝、午前一〇時の始業時から夜(夕方午後四時位)迄の終業時の間、騒音(爆音)の酷い中、仕事をやっていると、精神的にも、おかしくなりそうになってしまします。

開所当時は、創設者の故堀場信昭初代所長とマン・ツー・マンで、町の小さな印刷屋、あるむの名前を売り込んで(宣伝)行けば、おのずとお客(顧客)がつくのではないかと思ひました。

その時、お客として来たのは、当

時、個人で写植屋さん(藤田写植)をやっていた、

藤田マスエさんが(現・サービス管理責任者)が、当社、前身(あるむ)の印刷工房で名刺を頼み(注文)に来てくれたのです。(お客第一号か?)

勿論、まだ無認可だった為か、対応して名刺を作ったと思います。

その時、アパートの一角(印刷機を置く前)で、子供の為に、児童(図書)文庫をやっていました。

あるむが、本格的に印刷操作をスタートしたのは、児童文庫を廃止した後の事になります。

そこには、中古の印刷機二台、ハマダ七〇〇型と、トーカー八一〇L型を設置し、本格始動に至った。

その後、一人また一人と、メンバー(利用者)が増えて来て、手狭になつたので、同アパートの二階も借りて、なおかつ仕事をしていました。

認可が下りたのは、今から二三年

余りのこと。

市(大和市)から作業所としての認可が下りた。

私なりに、こう考えました。認可が、下りた時の、故堀場(信昭)所長(弟・敦所長の兄)は……

「これで、私が目指していた。地域作業所としての、あるむ、が誕生した。」

「又、共に働く場、障害を持つ人と、一緒に印刷をやっていたら、いいかなあ」と思っていたと、私は思いました。

そして、七年間もの間、古巣(あるむ誕生の地)西鶴間から、場所を同市内、南林間へ移転し、新たな一歩を踏み出しました。

そして、一二年後の二〇〇四年五月には、コンビ二?として使っていた、建物を借りて現在のあるむ(同市内・林間)に至っています。

同時に、営業活動の一環として紙すき関連(一筆箋・はがき)事業も

展開しております。

最後に、昨年（二〇一四年・一月）で、私たち、あるむは、創立三〇周年を迎える事ができました。ありがとうございます。

四宮 広隆

自分が入所したのは、もう20年以上も前です。

その頃は今より人も少なく、パソコンや印刷などの設備も古いものでした。

これからどうなるか分かりませんが、無理をしないでやっていこうと思えます。

原 あすか

三十周年おめでとうございます。

私は三十周年式典の実行委員に携わることができて良かったです。

長いようであつというまの私が働

いたのは何十年ですが、色々なことがありました。もう会えない人やあるむをやめた人が来てくださったりさまざまなお知らせがありました。これからますますあるむが繁栄しますようお願いしています。

井島 康人

僕は、「あるむ」に勤めて十七年になります。十七年前の「あるむ」は一軒家でした。

僕は装具をつけて手すりにつかまって二階に行き、車椅子に乗り換えしました。毎日階段を上り降りしたが、一番問題だったのが、トイレが下になくなって、毎日尿器をもっていたのを覚えています。それでも僕は、「あるむ」が好きでした。

今の「あるむ」はトイレの手すりも両方についているし、スロープもついて便利です。

「あるむ」が移ってくれて良かったなあと思います。

三上 尚吾

30周年おめでとうございます。

僕が入所した時は、Macで版下作成を教えて貰える職員が居なくて仕事をしながら自分で覚えました。

その時は、安い給料で残業午前0時は当たり前の世界だった。

それに比べて今は、教えて貰える職員が居るので、最近入所した方は本当に幸せ者ですよ。

一番最悪の時に入所しましたね。それから十数年経った現在、楽しく通ってます。

関水 溪

あるむの30周年記念式典に初めて参加しました。とても楽しかったです！

これからも仕事のあるむで頑張

たいので宜しく願ひします！

塩原 慎一

あるむ三〇周年おめでとうござ
います。

俺は、一〇周年になりました。

感謝の集いでは中華料理とエビチリ
と野菜スープなど、いろいろなコース
料理が出てきておいしく、ビール
は4〜5杯コップで飲みました。

式典が終わってから、三ツ境さく
らゆという銭湯に行つて午後3時20
分からサウナ・露天風呂、内風呂に
2回入り、4時に銭湯を出て、クリ
エイトに寄り30分かけて、自転車
帰りました。

星野 雄太

あるむ30周年おめでとうござい
ます。

加倉井 英雄

三〇周年おめでとうございます。
あつという間に九年たちまし
て、あるむに通つていろいろあり
ましたけど、今後もよろしくお願
ひします。

福岡 明子

あるむ三十周年おめでとうござい
ます。

三十年前というと、私は高校生で
した。高校を卒業し、一般企業に就
職しました。

その会社も四年で退職し、以降ア
ルバイトを転々としました。

昔のあるむの事は詳しくは知りま
せんが、いろいろ歴史があつたので
すね。創立者の堀場信昭さんとは残
念ながら一緒に仕事は出来ず、とて
も残念に思っています。

これから先、十年後、二十年後も

共働あるむとして飛躍していつてほ
しいと思います。

伊津井 暁彦

祝！三〇周年。

四〇周年に向かつて、これからも
頑張つていきます。

青木 浩平

あるむ30周年、おめでとうござい
ます。

自分はほとんど通所できていない
状態ではありますが、所員の皆さん
からの勧めもあり記念式典に参加
し、あるむの長い歴史と支えてくれ
ている大勢の人を知ることができま
した。

優しい職員さん達と共に、あるむ
はもつと歴史を積み上げていくと思
います。これからもよろしくお願ひ
いたします。

清水 正太郎

私が最初に感じたのが、私が生まれる前にあったのかという思いでした。そして、30年のという歴史を感じました。

式典には父と一緒に出席しました、式の進行もスムーズに進んで、すぐに時間が過ぎてました。その後の会食と歓談はとても楽しみまして、あつという間に時間が来ました。あるむの皆様一言、これからも宜しく願います。

日下 位江

あるむが三〇周年を迎えると聞いたときには、漠然とそんなに古くからあったのか：と思つた位でした。約十年前に精神を煩い、無知で恥ずかしい限りですが、作業所という存在すら知らなかつた私ですが、毎日布団の中で死にたく

なる思いから、ただただ抜け出したくてあるむの門をたたいたのは五年前のことでした。

三〇周年式典に参加させていただき、何も確立されていない状態から、いろいろな問題と立ち向かい、たくさんの方の手を借りながら今のあるむに至つたことを、今更ながら知りました。こんなに整つた状態のあるむで働けることと、こんなに元気に立ち直つたことを感謝して、これからも真面目に働いていきたいと思ひました。前にも書きましたが、創立者の堀場信昭さんにお会いして、感謝の気持ちを申し上げることが出来なかつたのが、今でもとても残念に思っています。

松浦 太樹

あるむは30周年になりました。ぼくはあるむに入ってから、

4年がたちました。これからもよろしく願ひします。

山崎 春輝

あるむ30周年おめでとうございます。これからもよろしく願ひします。

矢崎 由紀

30年前、私はその頃学生で同じクラスの生徒などから日常的にイジメられていた。靴など隠され修学旅行では、完全にハブにされ、寝ている時に同じ部屋の女子生徒らに一斉にケリを入れられるという暗黒の時代だった。そういう事があつた為、人と話すのが恐いという気持ちが常にあつた。

それを一気に変えたのが高校卒業後の9月に中国へ留学した事だ。3年程語学留学し、中国の生

活習慣も事情も体験し、帰国して言葉を生かした仕事に就こうと就職活動をしたが、専門知識がないと採用してもらえないという世間の冷たい壁にぶち当たり、紆余曲折あって私は病気になった。それは再発で完治する事はないと告げられた。それでも治療をしながら就職活動を続けていたがすべて不採用、酷いのだと私の姿を一目見て、

「お帰り下さい。」

と一言。これからどうしようかと思いい悩んでた時に病院勤務の妹が、「作業所というのがあるよ。」とアドバイスしてくれ早速調べたら、今在籍している所を見つけた。4月で丁度4年になる。最初は緊張して何がなんだか分からなかったけど慣れてくると私が存在している事が不安になってイライラしたりする事もあったが、今は、「まあいいか」

と思えるようになってきた。自分

としては凄い進歩だと思う、なぜなら人を許すという気持ちは今までなかったからだ。

そして30周年という節目の時に今、いられるのはある意味、「自然の力による偶然的な幸福」だと思う。これからも病気と寄り添いながら無理せず焦らず過ごしていこうと思う。できるかなあ？

小泉 佳子

あるむ三〇周年、本当におめでとうございます。

私は平成一二年に入りました。そして選別、ちらし折りの仕事をしています。みんなに応援してもらっています。本当にありがとうございます。

片瀬 勝寿

私が「あるむ」に初めて入所し

たのは、2002年6月のことです。当時、あるむは南林間5丁目にありました。その後、あるむが現在の林間2丁目に移転する直前までの記憶は鮮明に覚えています。また、2004年3月発行の「あるむの詩・第39号」には、「朝早く起きるのがとても苦手」と、この時点で睡眠障害を発症していた事が分かります。

あるむが現在の場所に移転以降は、ほとんど通所する事ができず、2007年12月に退所します。時は流れ、2012年・秋。転機が訪れます。現在、住んでいるアパートへ引越した際、転居ハガキを「あるむ」にお願いしたことがきっかけでした。そして、2013年1月から再び「あるむ」に通所する事になりました。あるむの30周年記念式典（30周年感謝の集い）に参加して思った事は、「あるむ」が無ければ、今の

自分はない、という事。得手不得手はあれど「あるむ」の仕事が好きだという事。そして最後は、これは自分の課題ですが「あるむ」にスムーズに通所できるようになり、社会との接点を持っていたいと、強く思っています。

原田 智

初めて入所したのは2年前になります。何もわからないでぼうっと入り、何もわからないから……。

1年目から畑の仕事をしたら、以前とび職人だったから目覚めました。家から来る時は、苦しいけどふりきって来ると気持ちが悪くスツキリしてあるむに来ることができません。何をするのもなく、守られながら安心して自立していく気持ちが出てきます……というか、生まれるのでしょうか。責任がありまして、皆様のあたたかさもある

ので怒られないし、本当に安心して仕事がつづけられる自信がわいてきます。

これからもどの行事もこなしていく気持ちはたくさんありますけど、一つ一つと一日を大事にしてむだのない一日にしていこうとを精いっぱい頑張りますので、あたたかいご声援とたくさんの方の気持ちを受け止めて欲しいです。今後も、よろしくお願いします。

本間 百合

あるむ三〇周年おめでとうございます。

私はあるむで働いて、まだ一年ちよつとですが、いいスタッフに恵まれてよかったですと思います。

栗原 賢二

祝・あるむ30周年おめでとうござ

ざいます。自分もあるむ30周年に在籍したことも心良く感謝を述べます。これからも、あるむのご活躍、ご健闘を祈って、自分もあるむと共に励んでいく所存であります。

長田 和子

まさか、あるむに入って一年目の私が「あるむ30周年」という重要な節目にいるとは、思いもよりませんでした。

あるむ30周年の式典にも、出てあるむが、今の場所には以前は無く、前は車いすの人は不便な思いをしていたとは知りませんでした。

「あるむ」という名前も「アルプスの少女ハイジ」の住んでいた丘からの由来だと聞き、感心し、「あるむ」の目的が共に働くという「共働」という素晴らしい目的があったことも一年経ち改めて知りました。

「あるむ」が今の「あるむ」に成るまでに色々な方の助けがあり、私の知らない「あるむ」の歴史は実に奥深いものなんだと、式典の時に美味しい料理を食べながら、思い知らされました。

式典でも話が出てきたのですが、あるむの創設者の所長のお兄様がいらつしやらなければ、あるむは無かったかも知れないと思うと感謝しなければならぬし、お会いした事は、ありませんでした。が「堀場信昭さんを偲んで」のあつむの詩でのとても優しそうな笑顔が印象的でした。

あるむが色々な出来事がありながらも30周年を迎えられて本当に良かったと思います。

二宮 まゆ

あるむ、30周年おめでとうございます。

私は、あるむに入れて良かったと思つています。

これからもあるむでがんばりたいと思います。

藤原 路恵

あるむに来てまだ1年。30年という年数は私にとってあまりにも重みがありすぎて、正直どうコメントしていいのかさえ分からぬい、というのが本音です。

ただ、こういった晴れがましい機会に自分が立ち会えるということとは、とても幸せなことだと感じています。

堀場信昭さんご夫婦が大きな「夢」を持つて立ち上げ、色々な人達が関わり皆で頑張つて培つていらした、その証が「あるむ」だと、私は思います。様々な人達がいて、きつと様々な事があつて、様々な想いがあるなか、自分自身が今そ

の「あるむ」にいて関わつていけること、そのことに感謝して、これからの「あるむ」を支える力になつていきたいと考えています。

宮沢 周士

私があるむに勤め始めてから、丸五年が経過しようとしています。あるむの三十年という長い歴史においてはそれは1/6の短い期間ですが、その中でも、常に変わり行くあるむの姿を、慌たたい毎日現場で目の当たりにしてきました。

時代の流れや法整備に柔軟に対応し変貌を遂げつつ、しかし同時に、変わつてはいけぬもの、変わらずにいたいものも確かにあるはずです。

有り体な言葉を使えば「初心」を振り返り「原点に立ち還る」と。そしてあるむの在り方に思いを馳せ、今一度立ち位置を確認す

ること。

あるむの素晴らしき、存在意義は「型破り」な「はみ出し者」であること、にこそあると考えています。

誰にも取り込まれず、徒党を組まず、型に押し込められず。両手に抱えきれない矛盾や苛立ちや諦めとも格闘しながら。

これからも「変わり続ける、変わらないあるむ」の一翼を担えれと思います。

「ステレオタイプな福祉の思想に風穴を開ける！」：くらいの気概は持ちつつに。

藤田 マスエ

あるむ三〇周年感謝の集いにたくさんの方々にお越しいただき、心からお礼申し上げます。祝電を披露させていただいたり、参列していただけなかつた大勢の方々からもお祝いのご褒を頂戴しまし

たことをうれしく思います。ありがとうございました。

設立者である堀場信昭さんがこの記念の席におられないのが残念でしたが、奥様が参列して下さり見届けて下さったことは、とてもうれしく心が安らぎました。

直接・間接に応援してくださった全ての皆さまに、あるむの一員として感謝し、三〇周年を迎えられたことをうれしく思ってお礼申し上げます。こうして記念の催しに参列し、大きな節目に立ち会うことができたことはあるむに直接関わっている私たちにとって大きな喜びです。

あるむを選び通所された皆さんがあるむを育ててくださったことは何よりのことであると思いません。新たな事業を起こしたり、それぞれの思いを実現したりして一人ひとりが少しでも希望した生活に近づけるよう、周りの方々の力

をお借りしながら共に働く場所としてあるむの存続を維持して行かなければと念じています。

ここまであるむを先導した神保理事長、堀場所長、下支えした職員一同これからも変わらぬいい仕事をしたいと思えます。

今後ともみなさんのご支援とお力添えをお願いします。

伊藤 悦子

去る 2月21日（土）あるむ創立30周年を記念して、これまでお世話になった皆様をお招きして「30周年感謝の集い」を北京飯店（大和駅前）にて開催いたしました。

当日は、地域を代表して大和市社協・地区社協をはじめ、地域福祉を支える関連施設、印刷業務の御得意先・関連企業、NPO法人正会員、元所員、元職員、現所員など、総勢53名の皆様にご出席を

賜りました。

式典では、あるむ法人理事長の挨拶に始まり、ご来賓の紹介、30年の歩みを紹介したあと、あるむを設立当初から知るやまねつと理事長 山岸様による乾杯で、会食・歓談がはじまりました。最後は、所長による皆様への感謝の言葉で式典を閉会いたしました。ご多忙のところ、ご出席していただいた皆様には、心から感謝いたします。また、参加はされませんでしたがお祝いを頂戴いたしました皆様へ対しましても、感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございます。ありがとうございました。

これまで多くの方々支えや理解、協力があって、あるむを運営していただくことができたのだと実感するとともに、設立者である、故堀場信昭さんの想いを改めて振り返る式典となりました。この30年の間に、福祉に関する制度が変わり、あるむの体制も大きく変化して

てきました。しかし、堀場さんが設立に際して掲げた理念や想いを忘れず、また、理事長がここまで引き継いできた想いも重ねて、その時代やあるむを必要とする人のニーズに合わせ、柔軟に対応できる事業所でありたいと思いました。

最後に、この30周年記念式典の実行に際して、通所年数が古い所員2名（通所30年目、通所20年目）と所長、伊藤により30周年記念事業実行委員会を発足、2013年7月から準備にあたってきました。式典会場選び、記念品の準備、記念誌の発行、式典当日の受付など、はじめてのことでは何ぞのよう

に決めていけばよいのかわからないことばかりでした。かなり前から準備のための会議を行っていたにも関わらず、結局式典の直前にバタバタと慌てて記念誌を作成したり、記念品を作成したりという余裕のない結果となってしまう

ました。そして式典当日は、とりあえず大きなトラブルだけは起きないで欲しい！とそれだけを願って迎えました。もちろん、大きなトラブルなどなく、無事に開催できたことをここに報告しておきます。

日々の業務の合間をぬって記念事業準備を進めてくれた所長に感謝するとともに、実行委員としてしっかりと保佐できなかったことをお詫びいたします。また、2名の所員は、記念品の作成、当日の会場準備・受付など積極的に協力してくれました。協力感謝いたします。

この30周年記念式典を1つの区切りとして、さらなる発展のため、所員・職員一丸となつて今後も頑張つていく所存であります。皆様には、引き続きあるむをご支援をいただきますようお願いいたします。

30周年記念事業実行委員